

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

肥満症の総合的治療ガイド

日本肥満症治療学会 治療ガイドライン委員会

(編集委員長: 白井厚治 東邦大学医療センター佐倉病院)

コンパス出版局、2013年6月30日 初版発行

■1 防風通聖散

疾患:

肥満症

引用など:

吉田俊秀, 日置智津子. 肥満治療としての漢方薬の作用機序. *医学のあゆみ* 202; 1005-9.
[MOL](#), [MOL-Lib](#)

有効性に関する記載ないしその要約:

肥満症治療の実際の薬物療法の項の『Q5: わが国で用いることのできる抗肥満薬は、ほかにありませんか』に対して、下記の記載がある。

『漢方薬である防風通聖散には、白色脂肪組織の脂肪分解作用と褐色脂肪組織の活性化による減量効果が報告されています。本薬剤は 18 種類の生薬からなり、このうち麻黄にはエフェドリンが含まれ、甘草、荊芥、連翹にはカフェイン様のホスホジエステラーゼ阻害作用があり、交感神経終末からノルアドレナリンの放出の増強と細胞内でのホスホジエステラーゼ作用の阻害を介してノルアドレナリンの効果を持続させる機序が想定されています。本薬剤 7.5g/日の投与が食事・運動療法単独群より6ヵ月で 3.4 kgの減量と内臓脂肪量及びウエスト周囲長を減少させることが報告されています。』

副作用に関する記載ないしその要約:

『副作用は、下痢を 5%、肝障害を 1~2%の頻度で認めます。』